

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

報告 徳島飛行場拡張整備事業 いよいよ大詰めへ

徳島飛行場拡張整備事業は、滑走路の500m延伸(完成時2500m)とターミナル地区の海側移転を目的に平成13年より開始されています。拡張整備事業は平成20年秋までに、外周護岸や地下排水路の他、埋立や盛土等の土地造成工事がほぼ完了しており、現在は滑走路、誘導路やエプロン(駐機場)の舗装工事が本格的に進められています。

拡張整備事業は航空機の運航と並行して進められるため、エプロン、滑走路、誘導路の舗装工事の多くは離発着する航空機の運航に支障のない夜間に実施されます。

平成21年1月にはターミナルビル株式会社の新ターミナルビル建築工事の起工式が行われましたが、舗装工事の進捗に合わせて今後航空局の航空灯火工事が予定されているなど、徳島飛行場拡張整備事業はいよいよ大詰めを迎えます。

当事業が完成すると、大型ジェット機の就航が可能となり、安全性や利便性が大きく向上します。新空港は一層の利用促進を図るとともに、全国における知名度をアップさせるため、『徳島阿波踊り空港』の愛称で生まれ変わる予定です。

平成21年度は施設整備の舞台がターミナル地区に移行しますが、四国地方整備局は他の事業主体と協力し、事業の確実な実施を進めてまいります。



↑ エプロン舗装工事



↑ ターミナルビル起工式

INDEX ▶

- みなと通信 1
徳島飛行場拡張整備事業 いよいよ大詰めへ
- みなとインフォメーション 2
平成21年度新規着工事業 安全・安心・活力の増大に向けて(港湾整備事業)
- こまぼんのなるほど! みなと講座 3
橘港の輸出入貨物について
- みなと通信 4
GPS波浪計設置工事に着手
NHK朝ドラ 美波町が舞台に!

平成21年度新規着工事業

安全・安心・活力の増大に向けて (港湾整備事業)

平成21年度予算の財務省原案において、徳島小松島港沖洲(外)地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の新規着工が認められました。



徳島県は今後30年以内の発生確率が50%程度といわれる南海地震発生時には大きな被害が想定されていることから、徳島県地域防災計画において、徳島小松島港は地震発生時の緊急物資や復旧資材等の海上輸送の拠点となる緊急輸送拠点港に位置づけられており、本施設は耐震強化岸壁として整備されます。これにより地震発生時には、関東・近畿・九州方面からの緊急物資の受入れが可能となります。

また、フェリー利用企業においては貨物の増加計画があることや、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトが進展していることなどから、貨物は今後も増加すると見込まれるため、より多くの貨物が輸送可能な大型船舶の就航が予定されています。

以上のことから、沖洲(外)地区に、大規模地震発生時における緊急物資等の海上輸送並びに船舶の大型化に対応した複合一貫輸送ターミナルを整備する事業を新規に着手します。

平成21年度は、調査・設計等を予定しており、関係者のご理解・ご協力のもと、事業効果の早期発現に向けて円滑な事業実施に努めてまいります。

事業概要

- 整備施設
岸壁(水深8.5m)(耐震)
泊地(水深8.5m)
航路・泊地(水深8.5m)
防波堤
ふ頭用地
- 事業期間
平成21年度～平成26年度
- 事業費(計画)
127億円(港湾整備事業費 118億円)

期待される整備効果

徳島小松島港沖洲(外)地区
複合一貫輸送ターミナル整備事業の実施

- 大規模地震発生時における緊急物資等の海上輸送を確保
- 船舶の大型化により、輸送が効率化

こまぼんのなるほど! みなと講座



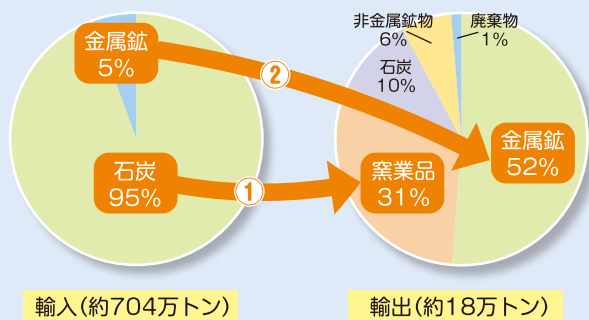
～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～

— 第16回 — 橘港の輸出入貨物について

徳島県内には、徳島小松島港・橘港と2つの重要港湾(国際・国内海上輸送網の拠点となる港)があります。徳島小松島港の取扱貨物は13回で紹介しましたが、橘港ではどんなモノを運んだり、どんなモノが運ばれてきたりしているのでしょうか? 私たちの生活と密接な関係を持つ貨物の中身について、こまぼんが見学してきました。

ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳とシボが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

橘港の取扱貨物内訳 (出典:平成18年 港湾統計)



① 石炭(輸入)→焦炭品(輸出)



石炭運搬船

橘港で最も取扱量が多い石炭は、オーストラリア・インドネシアから石炭船を利用して、運ばれています。大きい石炭船は、14万トン級、全長約275m、幅約47mもあります。

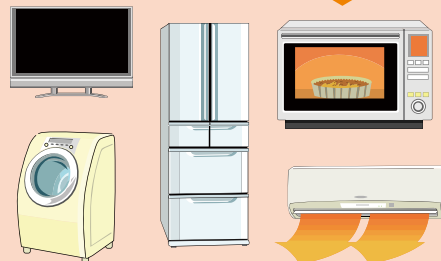


橘港に立地する石炭火力発電所

平成7年、四国電力㈱と電源開発(株)が敷地造成工事に着手。平成12年より全面運転を開始し、私たちの生活に欠かすことができない電気を発電し、四国地域だけでなく、関西・中国・九州地域でも使われています。

石炭等を燃やした後に出る石炭灰等は、セメント等の材料として橘港から全国、韓国の港へ船で運ばれ、全量有効利用しています。(焦炭品の輸出)

280万kwの電気



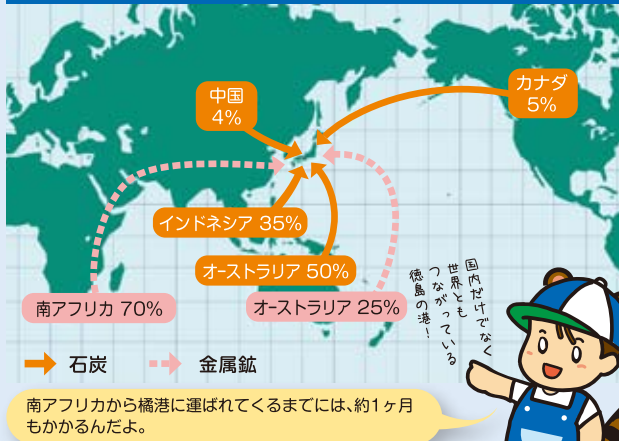
電気があるおかげで、毎日便利な生活ができるんだね。限りある資源を無駄遣いをしないようにしないといけないね。



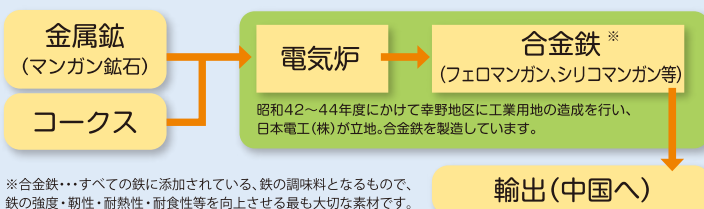
橘港の航空写真



石炭・金属鉱物の主な輸入先(平成18年)



② 金属鉱物(輸入)→金属鉱物(輸出)



*合金鉄...すべての鉄に添加されている、鉄の調味料となるもので、鉄の強度・靱性・耐熱性・耐食性等を向上させる最も大切な素材です。



フェロマンガ



報告 GPS波浪計 設置工事に着手

GPS波浪計は、港湾整備（設計・施工等）に必要な波浪等の海象情報を取得するため、沖合に浮かべたブイの上下変動をリアルタイムで観測するもので、現在、全国的に整備が進められています。

また、地震発生時には沿岸部よりも早く津波を検知できるため、東南海・南海地震等の津波に対する迅速な観測と、情報伝達が可能となります。

当事務所では、平成21年度中の設置を目指し、徳島県南部沖（沖合約20km、設置水深約430m）で設置工事に着手し、準備を進めています。

設置後は、観測データの検証を行い、早期の本格運用を図ることで、関係機関と連携した防災対策に役立てられることが期待されます。



↑ GPS波浪計システムの概要

報告 NHK朝ドラ 美波町が舞台に！

今年後半のNHK朝の連続ドラマ小説「ウェルかめ」は、アカウミガメの産卵地として知られる美波町や阿波踊りで有名な徳島市を舞台に、5月下旬頃より撮影が開始されます。

美波町では、平成19年度より、美波みなとまちづくり協議会（会長：森本日和佐道の駅駅長）を設立し、キャンドルナイトや魚市&カラフルフリーマーケットなどのイベントを実施し、にぎわいづくりの活動が進められています。

この朝ドラのロケ地をきっかけとして、住民自身がまちの良さを再発見し、継続したみなとの賑わいづくりの活動がより一層進展するよう、当事務所も支援していきます。



↑ アカウミガメが上陸する大浜海岸（美波町）

読者のみなさん、こんにちは。事務所長の河西です。

今号から紙面を刷新した新たな「あわみなと通信」をお届けします。引き続きご愛読よろしくお願いいたします。

3月に入り、日増しに春の気配が濃くなってきましたが、日本の経済は100年に1度と言われる程の危機的な状況であり、経済対策としての公共事業の重要性が再認識されているところです。当事務所においても港湾、海岸、空港と幅広い事業を実施しておりますが、早期発注に努め、皆様方の期待に応えていきたいと考えています。

4月に入れば、新しい年度がスタートします。徳島飛行場では来年春の供用のための工事を完成させるとともに、徳島小松島港では沖洲（外）地区の複合一貫輸送ターミナル整備事業に着手します。また、撫養港海岸においては一日でも早く地域の方々が安心して生活ができるよう事業進捗に努めてまいりますので、引き続きご理解、ご支援のほどよろしくお願い致します。

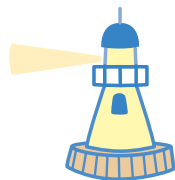
小松島港湾・空港整備事務所長 河西 博



出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは…

当事務所 **TEL (0885)32-3357** または、

ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>

より、お問い合わせください。